

2学期始業式 式辞

2020. 8. 20

今日から2学期です。短い夏休みとはいえ、まとまった時間がとれたでしょうから、2月以降のコロナ感染症の流行拡大が、自分自身の精神にどのような影響を及ぼしているか、また今後の with コロナの社会がどのようになっていくのだろうかと、考える時間があつたと思います。今日は、今後「君たちはどう生きるか」ということについて、2点考えてもらいたいと思います。

ひとつは、失敗することの大切さです。失敗するためには、その前提としてチャレンジしたという事実があります。一般的に、新しいことにチャレンジすることが好きな人は、当然失敗も多くなります。会社勤めをしていると、上司からはよく怒られますし、人事評価も低くなります。一方、チャレンジしない人は、失敗しない、つまり×がつかず、また、調整には長けていたりするので評価される傾向があります。半沢直樹ではないですが、縦割りで硬直化し、風通しが悪く、いわゆる大企業病になっていく組織は、きまってこういう雰囲気は、きまってこういう雰囲気は、きまってこういう雰囲気が充満しています。

薩摩藩の礎をつくった戦国武将である島津義弘が残したと言われている『薩摩の教え』でも、同じことを言っています。その内容は、評価されるべき人の順序です。

- 1位 自ら挑戦し、成功した者
- 2位 自ら挑戦し、失敗した者
- 3位 自ら挑戦しなかったが、挑戦した人の手助けをした者
- 4位 何もしなかった者
- 5位 何もせず批判だけをしている者 とあります。

マニュアルや指示に従うだけでなく、自ら考えて課題を解決することが必要とされる状況です。前例踏襲が、これまで以上に意味をなさなくなることは疑いようがありません。もちろん、歴史や経験から学ぶことを軽視してはいけません。『薩摩の教え』を、お互いに肝に銘じておきたいと思います。もし虹を見たいと思ったら、必ず雨が降るというトラブルがなければいけないのです。

二点目は、人と人との関係性についてです。

入学式で「今回の人類の危機とも言える感染は、一時的には、さらに人々を分断するかもしれません」と述べましたが、感染症の歴史が示すとおり、今回も地域外の人への排他的な動きや、SNS を中心とした感染者への誹謗中傷が絶えません。私たちは、コロナに分断されている状況といえます。しかしながら、私たちを繋いでいるものは、私たちを分断しているものよりも必ずや力を持っています。これも、入学式でお願いしましたが、今こそ、私たちは、聖徳太子が十七条憲法の冒頭に掲げた「和を以て貴しと為す」という言葉を原点とし、やわらぐ状態を作って納得いくまで話し合いをする姿勢を大切にしたいと思います。まずは、隣にいる友人、家族の存在に改めて感謝し、じっくりと話し合う中で、人間を信じることの素晴らしさを再確認してください。

さて、2学期は、体育大会、文化祭などの多くの学校行事もあり、皆さんにとって、本当に大切にしたいかけがえのない日々となることでしょう。まずは体育大会で一人ひとりが自分の責任をしっかりと果たすということを出発点として、互いに協力しながら準備をしてほしいと思います。その積み重ねが、学校の勢い、良い流れを作っていきます。皆さんの高校生活が、現在のコロナ禍の制約の中でも、みずみずしい感性を失うことなく、素直で前向きな姿勢を保ち続け、心躍る学び合いの日々となること願っています。

一緒に頑張りましょう。

校長 長井俊朗